

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400322		
法人名	社会福祉法人 ことぶき園		
事業所名	グループホーム ことぶき園		
所在地	島根県出雲市塩冶有原町1-50		
自己評価作成日	平成23年2月24日	評価結果市町村受理日	平成23年6月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaijosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成23年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当園は市街地の交通の便の良い住宅地にあり、通学路に面して建てられており、お年寄りが前庭に出て、日光浴をしたり、洗濯物を干したり庭で食事をしている光景を近所の住民が目にし、気軽に声を掛けたり訪れたりすることが出来る環境になっている。
 高齢となり重い障害を負っても、長年連れ添ってきた配偶者や、共に暮らしてきた家族と切り離されることなく生活できるよう支援している。認知症の改善に有効な余裕を持った生活介護に力を入れており、なじみの関係の中でそれぞれの方が生活の主体者となって暮らせるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣の住民が気軽に立ち寄れる民家風の建物は、道路に面してガラス戸が多く使われており、利用者は中でくつろぎながら、いつでも外の風景や行き交う人々、車など街の気配を感じることが出来る。隣接する民家の住民がホームを訪れて会話やお茶を楽しむだけでなく、ホームのラウンジを開放して、B型サロンや趣味、会議の場として地域との交流を積極的に行っている。職員は、利用者が自然体で自由に過ごせるように、また、日常の中に楽しみを見いだせるような工夫をしており、希望するところへ外出するなどホームに閉じこもることなく、生活できるよう支援している。運営推進会議では、地域住民や行政関係者が参加してホームの活動を報告するとともに、今後の計画についての意見を求めたり、さまざまな課題についても、ともに解決へ向けて取り組めるような関係作り心がけている。利用者は、外部者にふれる機会も多く、意見や要望が言える環境作りにも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアテーマと8項目のケア方針に基づき、朝・夕の申し送り、職員会議等で話し合いを繰り返し、実践を通して理念を学び合うようにしている。 常に原点を振り返り、ぶれない理念を話し合いの中で追求している。	ふつうの暮らしが笑ってできるという、福祉の原点に常に立ち返るよう、職員会議で話し合うなど、理念の確認と共有が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所を一つの家庭として捉えて、自然な近所付き合いが出来るよう心がけている。 散歩中、気軽に声を掛け合ったり、畑で採れた野菜やお花を頂いたり、日常的な交流がある。サロン会を開き、地域の方々が気軽に来ることができる場づくりもしている。	施設のラウンジに図書を揃えたり、映画会を催したりなどで、地域に開放し、近隣の住民どうしや利用者との交流の場としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	様々な研修にてことぶき園の取り組みを報告したり、学生のボランティアの訪問や、様々な実習生を受け入れてグループホームの本質を伝え、それが地域のなかで生かされたいと願っている。また、地域に開けたサロン会や様々な交流を通し、障害を抱えても普通に暮らせることを理解して頂いたり、支援の場を広げる様になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域代表者や行政関係者で定期的に行っており、現状報告と意見を募り、話し合いを積極的に行っている。一緒に地域密着サービスを考える機会ともなっている。報告は職員会議で全員に伝え、サービス向上につなげている。	ホームを地域の人々にも活用してもらえるような意見を運営推進会議で話し合い、B型サロンの開催や子供、中学生たちの作品の発表の場とすることなどを計画、実行するなど、会議を活かした取り組みを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市と話し合う機会が増え、グループホームとは何かを積極的に話せるようになった。主に運営推進会議で、サービスの取り組みを伝えており、助言を得たりしている。	管理者などが市へ出向いて、グループホームのあるべき姿やケアの向上について話し合うなど、連携の強化に積極的に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアの内容を十分に検討する機会を持ち、該当していないか話し合いを行っている。	日々のケアの内容について身体拘束に該当していないかを具体的に検証し続けており、職員の都合で管理することがないよう配慮をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待などあり得ないと考えているが、改めて話し合いをして、虐待を見過ごさない意識を高める努力を日々繰り返さなければいけない。繰り返し原点に戻り、一人ひとりが確認できるよう職員会議で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要のあると感じた場面などを見落とさないよう、今回も自己評価の話し合いをした際にも意識確認をした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をとり説明をして、理解を得ている。重度化や看取りについては、その時々に応じて必要となった時に繰り返し話し合いをして、納得・理解を得、協力して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は介護度も高く難しいが、利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、随時家族との話し合いの場を設けて、利用者本位の場をつくるよう努力している。しかし、まだまだ家族の意見が十分とは思えないので、アンケートなどで家族へ働きかけたり、意見を聞き出し易い場を作らなければならないと考えている。	コミュニケーションが困難な利用者には、表情や態度でそれと察したことを、声掛けしながら確認している。家族とは、面会時など機会をとらえてゆっくり話し合う時間をもうけて意見を聞くようにしており、それをケアに活かすよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会、職員会議、申し送りなどにおいて意見や提案を言ってもらえるように努め、その都度検討を行い、業務に反映させている。又、個別に話をする機会を設け、意見・提案が言い易い場も作っている。年度当初には全職員に文章で提案を求めている。	管理者は、個別に時間を設けて職員一人ひとりの意見が聞けるようにしており、職員の意欲向上やケアの向上に努めている。管理者は職員に対して意見が言いやすい雰囲気になるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職会議などで個々の職員の意見を反映させ、職場環境・条件を整える努力をしている。十分な評価で各自が向上心を持って業務できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々、目の前の利用者が教えて下さると思っている。学んだ事を申し送り、職員会議で発言する場を持って、感性を磨くことに力も入れている。定期的に法人としての研修がある。事業所外での研修も参加を促し、常に専門職としてのレベルの向上も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他県ではあるが同じ目的を持ってケアに取り組んでいる施設と交流し、互いに質の向上に取り組んでいる。又、しまね小規模ケア研修会や出雲市グループホーム連絡会の研修会等に参加し交流を図ったり、意見交換等を行っている。参加した職員は、報告レポートと職員会議での報告を続けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ほとんどの方がデイサービスや小規模多機能からの利用なので昔からの顔なじみということもあり、心身の状態把握が出来ており、話を受け止めることの出来る基礎がある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ほとんどの方がデイサービスや小規模多機能からの利用なので、家族の抱えている問題も把握しているが、入居によって家族との距離をさらに深めていけるよう、細かな事柄も報告、相談するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を聞き、丁寧に対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ立場に立ち、支え合い、共感出来る関係づくりをしている。人生の大先輩として学ぶところも大きく、又職員を気遣ってくださるなど同じ人間同士として共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との絆を大切にしながら機会ある事に職員の思いもきめ細かく伝え、共に支援できるよう家族とよく話を行うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方やお友達が訪ねてきたり、家族さんとお墓参りに出かけられるなど、馴染みの人や場を大切にしている。 ご本人が出来ない所を手伝い、今まで通りの生活が出来るよう努めている。	利用者の中には、入居ではなく仕事しているつもりの方がおられるが、その方の気持ちを大切にしたい対応に心がけている。日常的に、馴染んでいた趣味や知人とのふれあいなどが途絶えることのないような取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の心の交流、ふれあいの場面をさりげなく作り、支え合う関係作りをしている。互いの姿があり、安心できる関係となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了した家族も法人の理事やボランティアとして残って関わりを残している方、また近くに来た顔を出して下さる方等、色々おられて大切にしていきたいと感じている。時折、連絡する方もありサロン会で繋げていきたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの関係を活かし、日々の言葉や表情からも、その方の気持ちを把握するよう努めている。又、家族からも話を聞くなど、ご本人にとって最良を考えている。	表情や態度から読み取った本人の思いや希望がすれ違うことがないように、語りかけややうなずきなどで確認しながらケアすることに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中やご本人の習慣などから日々、その方らしさを発見し、その方らしい暮らしを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人にとっての生活のリズムを把握し、出来ることを大切に、生き生きとされる場面を多く持てるよう努めている。自発的な行動を大切にしている事で思わぬ力を発見することがある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のミーティングや毎月のケース会議などでその方について、新しい発見やその方の思いなどを深く話し合い、プランに反映させている。	利用者個々のケース検討を担当者が1時間程度かけて話し合ったものを、職員会議にもってゆき、全職員が検討し共有できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に健康状態、暮らしの様子や気づきを記録している。職員は常に目を通し、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の様子をよく知り、本人の様子に応じて変化するニーズに対応するよう努めている。ご本人にとって必要な事を職員間で検討を行ったり、柔軟に対応出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方が興味をもたれることには積極的に参加できるように市民会館や美術館、図書館、科学館等に出掛けている。ちょうど市街地に位置しており環境的にも豊かである。その方が興味を持たれることには大いに活用し、豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医を大切にしている。往診に来られる医師も、園の様子を理解して頂き、応援してもらうようになっている。家族と協力しながら通院介助もやっている。	本人、家族にとっての信頼できる医師との関わりが継続できるよう家族とも随時話し合いながら支援している。複数の医療機関との連携を行い、往診や受診など、個別の対応に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤しており、直ぐに対応できるようにしている。受診も柔軟に対応できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめに病院に通い、なるべく早く退院できるように、家族や医師に働きかけている。医療的に落ち着くと帰ってもらうようになっている。カンファレンスにも参加できるよう、家族・病院に協力を得るように心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時に確認書を交わし、説明をしているが、まず一生懸命生きて行くことが大切と考えているので、各関係者と状況に合わせた話し合いをしていき、支援していきたいと考えている。	利用者本人に生きる希望を持っていただきながら、毎日の生活を支えるその延長線に、重度化や終末期がくるという理念の下、本人や家族の考えや思いを一番大切にするための話し合いを関係者を交えて何度でもしてゆく取り組みが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対策等のマニュアルを活用し、職員会議で学習を行っている。日頃より応急手当や初期対応の仕方について再々申し送りや話をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練を定期的実施している。避難通路の確認や消火器の点検は定期的に行っている。地域の方にも協力を受けられるよう顔なじみになるよう努めている。	避難訓練が定期的に行われて、職員はその時に備えている。また、普段から近隣とのおつきあいをしてゆく中で、利用者のお顔や様子まで、周知してもらい、災害時にも協力が得られるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権尊重は繰り返し伝えている。職員一同、日々意識していると考える。	排泄への援助のときには、肌の露出や不快な声かけをしない。また、居室に掃除などで、入るときにも、都度利用者本人の了承を得るなど、尊厳を守る態度が徹底して取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	当然の事であり、小さなことも自己決定する努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度の方が多く、自分から動かせない方も多いため、会話の中から希望を察している。スケジュールがなく、ご本人のペースを大切にしながら暮らして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中で用途に応じてメリハリをつけ、おしゃれも楽しませている。服も一緒に選び、身につけられることが多い。理容室へ出掛ける援助をしているが、重度となり難しい方が多くなった。家族さんと一緒に行ってもらうなど工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度の方にも野菜ちぎりなど出来る事をしていただき、一緒に食事作りをしている。雰囲気を楽しみながら、役割発揮していただいたり、盛り付けや食器洗いなども一緒にしている。テーブルを囲みおやつ作りをしたり、鍋を囲み一緒に食事するなど家庭的な雰囲気の中で食事を楽しみにして頂いている。	下ごしらえや味付け、配膳、方付けなど食事作りへの、参加は日常的に行われている。また、利用者からの希望なども取り入れて、季節の献立や、赤提灯ふうの居酒屋ごしらえなど、普段とは変わった趣向での食事会なども随時取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を尊重しているが、バランスが摂れているか見守ることもある。夜間の水分補給も心掛け、脱水の予防も行っている。重度となられ、食事・水分の摂取が要となった方については記録を取ったりも、改善に向けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの研修会に参加し、研修内容は職員会議で報告がされる。全職員口腔ケアの重要性を認識している。毎食後、個人の状態に応じた口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、気持ち良く排泄していただいている。出来る限りトイレで排泄を促す事と、習慣を活かし、オムツからショーツに履き替え、自立に向けた支援も行っている。	尿失禁などで服が汚れたときなどは、本人が恥ずかしい思いをしないよう、それとは違う理由で、「お着替えしましょう」など、それぞれの状況に合わせた援助が行われている。また、重度の方には行動の中で排泄のサインを見つけ、トイレに誘うなど自立へ向けた取り組みを継続している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多いメニューを取り入れるよう工夫している。水分補給にも心掛け、日中は身体を動かされるよう個人に合った方法でマッサージ・体操など行ったりしている。頑固な便秘に対しては主治医の指示を仰ぎ、個々に応じた予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間、曜日は決まっておらず、各々生活の様子を伺いながらお誘いをし、気持ち良く入浴して頂いている。拒否のある方には、言葉かけや対応の工夫によって本人が納得して入られるよう支援している。	入浴への本人の思いや流儀を大切にしており、新任職員ではなく、信頼関係が築かれている馴染みの職員が援助することで、入浴が楽しい時間であるような取り組みが行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調リズムを把握しており大切にしている。気持ち良く休息をとれる様、安心される場も考慮したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から出された薬の説明書は一括してファイルしており閲覧でき、全職員が理解できるようにしている。 処方の変更は連絡ノート等で伝え、間違いのないよう注意を促している。 服薬方法も異なるので、ケース検討会で統一した事を全員に伝えている。症状の変化などについては、直ぐに看護師・医師に相談する体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶の先生だった方に抹茶を立ててもらったり、英語の先生だった方には英語を教えてもらったりと、一人ひとりの得意なことを楽しみながら役割発揮していただいている。個々の生活歴をよく知り、活かす支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を肌で感じてもらうようできるだけ外出したり、太陽に当たったり、季節毎に楽しめる戸外での行事には職員の体制をとり、全員出掛けるようにしている。 普段から希望を聞き逃さないように注意し、その希望に添えるよう支援している。個別支援を心掛けている。	お茶などゆったりとした時に会話の中から自然にでてくる希望を取り入れて、散歩や遠出、ドライブなど、太陽を浴びたり、外出の喜びを感じられるような支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には自分で支払ってもらっているが、なかなかそれも難しくなってきた人がほとんどである。 お金を持つことの大切さを忘れないためにも、支援をしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	部屋に電話を置いている方もおられる。美容室へ予約を入れたり、家族への電話希望にはいつでも対応している。(使い方を教えてあげ、自信と安堵にも繋げている)毎日夫から電話があり、心待ちに過ごされている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールはキッチンが一緒になっており、食事を作る場所が見えたり、一緒に作ったりするなど家庭のにおいを大切にしている。 又、季節の花を飾ったり、置物など飾りも落ち着ける雰囲気作りをしている。冬はコタツで暖をとるなどゆったり過ごせる空間づくりに心掛けている。	季節の花や外の光、食事づくりの音や匂い、職員の静かな所作や優しい言葉、街中らしい人や車の気配や喧噪など、利用者の五感にほどよい刺激になるようなしつらえと配慮が見られる。また、それぞれの気分に合わせた居場所として、間仕切りやソファなどがそこかしこに置いてあるなど、個人の思いを大切にしたい取り組みが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小さな空間作りをしたり、テーブル等の位置を工夫したり、その都度臨機応変な対応をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の持ち込まれた馴染みの家具やお花、写真などを通し、自分の部屋だと感じていただける雰囲気となっている。家族さんによっては共有空間で心地良く過ごされている方もおり、居室にこだわられない方もいる。重度化し、居室でゆっくり過ごす時間も多くなった方には、特に家族さんにも協力を得たいと考えている。	利用者とともにしつらえられた居室は、寝具やタンス、写真や思い出の品々が持ち込まれており、それぞれの利用者の居心地の良さが配慮されている。	利用者個人の空間としての居室が、より個人的で豊かなものになり、ホームの中で大切なよりどころの一つとなるようなさらなる取り組みを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	重度の方が多いが、無理のないところで歩行し身体機能の低下を防ぐなど、一人ひとりに合わせた工夫をしている。		